

総務経済・文教厚生合同による常任委員会行政視察研修を報告します

平成 29 年 9 月 27 日～ 29 日

目的

幅広い視野と見識を養い、その成果を通して総合的な議会活動の充実、進展並びに活性化を図るため視察研修を実施。本村の食・農による地域づくり、人口減少対策及びこども園建設等に生かし、今後の議会活動に資することを目的とした。

視察先

長野県南牧村（介護予防の取り組みと農業について）
 長野県北相木村（山村留学と移住の村について）
 長野県長野市（認定こども園朝陽学園）

初日：南牧村 介護予防事業として65歳以上の高齢者のいきいき健診（ご長寿ドック、ヘルス・スクリーニング、ドック）を実施し、健診の結果、二次予防事業対象者（介護予防事業の対象となる人）となった人を対象に、理学療法士及び運動指導士の下、運動機能向上及び閉じこもりの防止対策教室が開催されていました。

また、一次予防対策事業として体操教室を開催するなど、積極的に介護予防事業へ取り組んでいました。

次に、南牧村の農業ですが、標高が1,000mから1,400mであり夏季の冷涼な気候を生かした高原野菜の生産が盛んで、レタスや白菜などの葉物野菜が栽培されていました。販売農家数は平成12年から比較すると2割程度減少しているが、専業農家がここ数年増加の傾向にあり、会社を退職した方などが兼業農家から専業農家となっているのが要因ではないかと説明を受けました。経営耕地面積は3ha～10haが180戸と全体の半数を占め、外国から農業実習生を受入れるなど、村内至る所で野菜の栽培が行われておりました。介護予防事業及び農業については本村でも生かせる部分は多く、今後の村づくりに生かせるよう議論していきたいと思います。



日本一の生産量、機械設備、規模に圧巻された。

2日目：北相木村 山村留学と移住の取り組みについて学んで参りました。山村留学は、昭和62年から児童数確保のために始めた事業であり、全校児童数は66名（山村留学生6名）でありましたが、平成22年度の全校児童数は27名まで減少してしまいました。隣町との小学校統合の話の皮切りに、民間学習塾との連携を図り、山村留学事業に本気で取り組んだ結果、平成26年に山村留学と北相木小学校の魅力について説明会を開催したところ、1泊2日の体験会に45組もの参加があり、新規留学生12名の募集に対して約2倍の23名もの願書が提出されたそうです。平成28年度・29年度共に全校児童数は60名で、山村留学生は30名と地元児童と同数になったと説明がありました。民間学習塾との連携により、学力が高く、魅力ある小学校づくりに成功した結果であると担当者から説明がありました。児童数が減少している本村にとって、大変有意義な視察となりました。



山村留学は、自立精神や忍耐力を養い、元気でたくましい人間形成に繋がっている。

